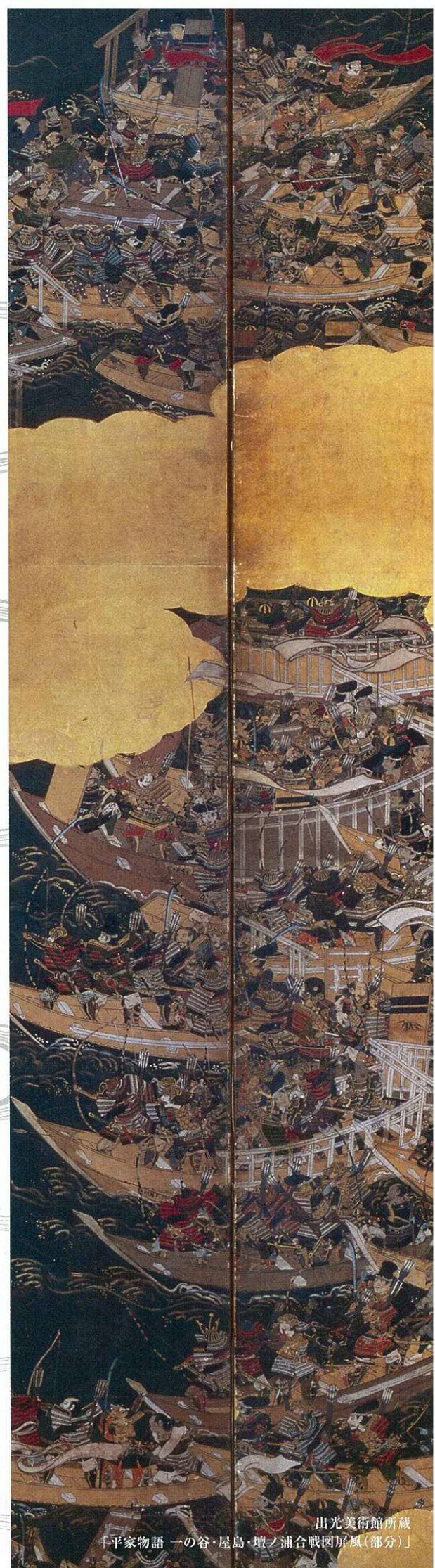




門司の

源平合戦と平家伝説



1 平山観音院 ひらやまかんのいん
●門司区大字伊川 交通:平原バス停徒歩20分

壇ノ浦に敗れた平家残党が、一族を弔うために回向堂を建立したのが平山観音院の起こりと言われている。平家一門の落人の乳母がこの谷あいに乳飲み子の姫とひっそりとくらししていたが、源氏に見つかり自害。「わらわの乳房の一つは姫のために、他の一つは乳に恵まれない子のために…」と息絶えた。すると不思議なことに背後の岩から清水が湧き出てきた。お乳の出ない人がその清水を飲むと、お乳の出が良くなったことから「お乳水」といわれている。



お乳水

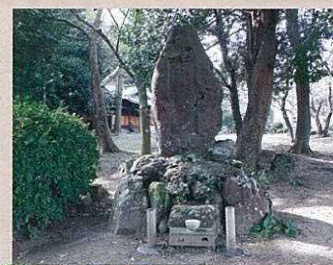


7 水天宮 すいてんぐう
●門司区大字大積 交通:大里東口バス停徒歩5分

壇ノ浦の合戦で平教経の奥方「海御前(あまごぜ)」は敵将を切り捨てると安徳天皇の後を追って海に身を投げた。その遺体は大積の浜に漂着。里人は、浜の松の根元に手厚く葬り、「水天宮」として祀った。海御前はいつしか河童の総帥になったと言われ境内には海御前の碑やかっぱの石像がある。敗れた平家の武士は「平家ガニ」に、女官は「河童」に化身したといわれている。



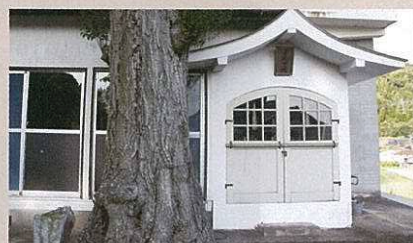
▶海御前の碑



◀かっぱの石像

2 伊川貴舟神社 いかわきふねじんじや
●門司区大字伊川 交通:平原バス停徒歩10分

このあたりは、壇ノ浦の合戦後、平家の残党が隠れ棲んだ所で、境内の釈迦堂裏には、集められた平家の供養塔がある。また、安徳帝を偲んだと思われる幼帝、二位の尼、平宗盛の像が小さい祠に安置されている。時代は不詳だが、着色され、そのお姿は戸上神社の御神像とほぼ同じである。



貴舟神社の三座像(非公開)

3 聖山(日尻山) ひじりやま
●門司区田野浦2丁目 交通:田野浦臨海公園前バス停徒歩2分

源平の戦いに敗れた名のある平家の女官が尼僧となって山頂に草庵を結び、一門の供養をしたところからこの名がある。また、麓の真楽寺(正治2年(1200年)頃開基)は、その女官が草庵を結んだのが、この寺の始まりと伝えられている。



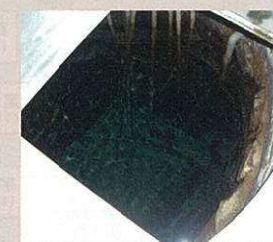
8 殿墓 とのぼか
●門司区大字黒川 交通:八木田前バス停徒歩3分

黒川の八木田前バス停の奥、竹林の中に整然と並んだ18基の五輪の塔は、「殿墓」と呼ばれている。寿永4年(1185年)命を受けて宇佐八幡へ戦勝祈願に行った平休は、その帰途平家の敗戦を知って山中へ潜んだ。追討がゆるんだところで、「八木田」と姓を変えて農業に従事、一方討死した一族の墓を集め、供養したのが殿墓であるといわれている。



9 太刀の池 たちのいけ
●門司区大字田野浦 交通:太刀浦埠頭入口バス停徒歩12分

太刀浦に清水が尽きることなく湧き出る池がある。この池は岩盤で、壇ノ浦の合戦の折、安徳天皇の御太刀を沈めて水神に戦勝祈願をしたとも、平家の武将が血のついた太刀をこの池で洗ったとも伝えられている。これが「太刀浦(たちのうら)」の地名の由来となっている。生活用水として利用された為、直径2m位の大きな井戸の形をしている。



4 風呂の井戸 ふろのいど
●門司区柳町2丁目 交通:高田二丁目バス停徒歩2分

源氏に追われた平家の一行が、この地に着いた時、里人は安徳天皇をはじめ、一行の旅の疲れを癒すため、この泉の水を風呂の用水にしたといわれている。



5 地蔵の森の五輪の塔 じぞうのもりのごりんのとう
●門司区白野江4丁目 交通:白野江バス停徒歩10分

白ノ江と太刀の浦を結ぶ道路の脇にひっそりと数基の五輪の塔がある。丁度、逃亡の道なりに当たり、隠れ住んだ場所なのか、平家の落人が供養したものといわれている。



10 梅ノ木小路 うめのきこうじ(うめのきしょうじ)
●門司区大里本町2丁目 交通:大里バス停徒歩5分

海岸から柳御所に至る通りの古い地名で、野梅が生えていた。梅ノ木小路と言い、源平盛衰記に「揚梅桃季ひき植えて九重の都に少し似たりければ…」とある。この通りを検非違使の先導で、主上、建礼門院、二位の尼の輿、三種の神器を納めた唐櫃と、平家一門は、御所へと進んだ。



11 戸上神社 とのえじんじや
●門司区大里戸ノ上4丁目 交通:戸ノ上神社前バス停徒歩2分

祭神は天之御中主神他、柳御所より合祀された安徳帝、平宗盛も祭神で、貴舟社の石室に安置されていたお二人の像(壇ノ浦の戦い直後(1185~1189年)の作)が納められている。寛平年間(889~898年)柳ヶ浦の漁夫が網にかかった御霊代(みたましろ)を、神託により枝折戸に奉戴して山頂に祀ったのが起こりといわれている。境内に満隆寺も。



関門海峡・壇ノ浦合戦ゆかりの地



イルカの大群

戦いの最中、イルカの大群が現れたため、「何の兆しか」と平家が占ったところ、「通り過ぎれば源軍の負け、引き返せば源軍の負け」となった。イルカの大群は、まっすぐに通り過ぎ、平家の一門は大いに落胆したという。



平家ガニ

海に散った平家の武将たちは、やがて怒りの形相を甲羅に刻んだカニ(平家ガニ)と化したといわれている。



いのちのたび博物館所蔵



義経の八艘跳び

戦いの最中、源義経が平家の強者、平教経に遭遇したとき、身軽で俊敏な義経は、ジャンプして船を乗り移り、難を逃れたという。



義経の奇襲

義経は、平家軍の水手・舵取りを射させて混乱させ、戦況が逆転した。当時、船頭や漕ぎ手は非戦闘員として、攻撃しないのが慣例だった。



大里(内裏)

寿永の頃、大里は「豊前国 柳ヶ浦」と呼ばれていた。源氏に追われた平家は、この地に御所を定めため内裏とも呼ばれ、江戸時代の宿場地図にも「内裏」の字が見られる。享保年間(1716~1735)「玄海に出没する海賊を平定せよ」という幕命を受けた小笠原藩は、「内裏」の海に血を流すのは恐れ多いと「大里」に改めたといわれている。



6

柳御所 やなぎのごしよ

●門司区大里戸ノ上1丁目 交通:柳御所バス停徒歩1分

都を追われ太宰府に落ちた平家は、緒方三郎惟義の裏切りにあい、山鹿城(芦屋)を経て、この地に御所を定めた。時に寿永2年(1183年)旧暦8月、去ったのは同年10月の頃。企救郡誌によると、「昔は貴船社といい、祭神は安徳帝と平宗盛卿なり」とある。境内の石室にお二人の像が安置されていたが、現在は戸上神社に合祀されている。境内には、都を偲んだ平時忠、経正、忠度の歌碑三基があり、特に、忠度が詠んだ「都なる九重の内恋しくば 柳の御所に立ち寄りて見よ」は、御所の存在を明らかにしている。



壇ノ浦の戦い

今 から800年余り前、現在の関門橋のすぐ東の海域に、大小1,300艘(そう)の船が集結し、5 km程を隔てて対峙した。

本州・長府付近の約800艘は、源頼朝の弟、源義経を大将とし、白幟を掲げた源軍。九州・田野浦に布陣した500艘は、紅幟を掲げた平軍で、病死した平清盛の子、平知盛が率い、中には、安徳天皇を乗せた御座船も含まれていた。



源義経像(川本喜八郎・制作)

この両軍の戦いが、「源平合戦・壇ノ浦の戦い」である。「壇ノ浦の戦い」は、源軍の勝利に終わった。夕刻、わずか8歳の安徳



平知盛像(川本喜八郎・制作)

天皇は、平清盛の妻時子(安徳帝の祖母)に「波の下にも都があります」と導かれ、抱かれて入水した。続いて、多くの平家の武将や女官たちも、次々と、春浅い海中へと身を投じたといわれている。「壇ノ浦の戦い」は、平家を滅亡させ、貴族政治を永遠に消し去った。門司では、滅びたものへの同情から、平家の伝説が多く残っている。



源軍像(川本喜八郎・制作)



平軍像(川本喜八郎・制作)



関門海峡・壇ノ浦合戦ゆかりの地
【門司港周辺MAP】

14 甲宗八幡神社

こうそうはちまんじんじや
●門司区旧門司1丁目 交通:甲宗八幡宮前バス停徒歩1分

寿永4年(1185年)壇ノ浦の合戦に際して、源氏一門が戦勝祈願のため参拝した。また合戦後、源範頼、義経兄弟は、戦いで荒れた社殿を再建した。境内には、壇ノ浦の合戦の平家の総大将宗盛の弟で、「見るべき程の事をば見つ。今はただ自害せん。」と名言を残し、鎧二領を着て入水して果てた「平知盛」の墓と伝えられる石塔がある。昭和28年大水害の折、筆立山から流れてきたそうだ。貞観2年(860年)清和天皇が創建。神功皇后が三韓を征した時、着用したと言われる甲が御神体。50年に一度公開され、次回の公開は2058年。

15 和布刈神社

めかりじんじや
●門司区大字門司 交通:和布刈神社前バス停徒歩1分

「新平家物語」によると、壇ノ浦の合戦前夜、神宮橋魚彦による祝詞と新酒で戦勝を祈願し、平家一門の願文を奏上したとある。眼前は急潮渦巻く早瀬の瀬戸。高浜虚子が、この潮流を見て「夏潮の今退く平家滅ぶ時も」と詠んだ句碑が境内にある。九州の最北端に位置する和布刈神社の創建は古く、仲哀天皇9年(200年)。和布刈神事(福岡県無形民族文化財)は、全国的にも有名で、毎年旧暦正月元旦の午前3時頃、退潮を追って3人の神官が厳寒の海に入り岩についた和布を刈る。

12 関門海峡ミュージアム

かんもんかいきょうみゅうじあむ
●門司区西海岸1丁目 交通:JR門司港駅徒歩5分

関門海峡の過去・現在を五感で感じられるミュージアム。海峡にまつわる歴史を再現した「海峡アトリウム」では、4階まで吹き抜けるシンボルゾーンで大積に伝わる海御前とかっぱの伝説をもとに創作した物語が音と光と映像で楽しめる。また、「海峡歴史回廊」では、歴史上印象的なシーンを人形アートでたどる歴史絵巻。壇ノ浦の合戦の場面はもちろん、源氏・平家の群像や、安徳天皇と二位の尼、海に沈む建礼門院などをドラマチックに表現している。

ホリヒロシ制作

13 壇ノ浦合戦壁画

だんのうらかっせんへきが
●門司区大字門司 交通:和布刈公園バス停徒歩12分

義経の八艘跳び、建礼門院入水、御座船の安徳天皇、擬装船など、壇ノ浦の合戦の様子が迫力をもって再現されている。赤間神宮所蔵の「紙本金地著色安徳天皇縁起絵図」の一部を基に、作成。和布刈公園内の第二展望台にある、高さ3m、長さ44m、1400枚の美しい陶板(有田焼)の壁画。

16 門司城跡

もじじょうあと
●門司区大字門司 交通:和布刈公園バス停徒歩25分

寿永4年(1185年)平知盛が源氏との一戦に備えて、古城山に門司城を築城した。壇ノ浦の合戦後の寛元2年(1244年)鎌倉幕府の命により藤原親房が豊前守護職として下向、子孫は地名から姓を門司氏と改め、門司城を本城として五支城を築き企救半島の守りを固めた。350年間の支配の後、小倉城の支城として残ったが、元和元年(1615年)一国一城令によって破却された。

【毛利元就と大友宗麟】
戦国時代には門司城をめぐる激しい戦いがくり広げられた。中国地方の覇者毛利元就は九州侵攻への足がかりとして門司・小倉一帯を占領した。一方、豊後の大友宗麟は毛利氏から門司城を奪還しようと、執拗に戦いを挑んだ。毛利氏と大友氏の門司城争奪戦は十数年も続き、永禄4年(1561年)には最大の激戦がくり広げられた。

17 平家一杯水

へいけのいちばいみず
●門司区大字門司 交通:和布刈神社前バス停徒歩1分

壇ノ浦の合戦で敗れた平家の武将が、岸辺に流れ着きやっとの思いで水を一口飲むと、それは真水で美味しく、もう一杯と2度目に口をつけたところ海水が変わり、こと切れたという伝説。

※関門海峡ミュージアム・壇ノ浦合戦壁画の場所は、裏表紙の門司港周辺MAPで確認してください。